

次世代アスリート発掘へ全力

第57回定期総会 2026アジア大会視野に

在日本大韓体育会（宋栄奉会長）の第57回定期総会が4月19日、韓国中央会館で開き、第1号から第5議案をすべて原案通りに採択した。

宋会長は「昨年のパリ五輪で女子柔道韓国代表選手として出場した在日3世の許海実選手が銀メダルを獲得し、在日女子初の五輪メダリストに輝いた。また、京都国際高校が夏の甲子園で優勝し在日アスリートが世界に羽ばたいた年だった。今年の第106回全国体育大会・釜山2025で優勝できるよう次世代アスリートの発掘、育成に全力を尽くそう」と呼びかけた。



次世代アスリートの発掘・育成強化を決めた在日本大韓体育会の第57回定期総会（4月19日、韓国中央会館）

韓日体育人の絆さらに

在日本大韓体育会
会長 宋栄奉



本会は次世代同胞アスリートの発掘と育成に注力し、韓国国家代表選手として各種国際競技大会で活躍する在日3世アスリートを輩出して参りました。

とくに昨年7月のパリ五輪柔道では在日3世の許ミミ選手が在日女子初となる、銀メダルを獲得し、同じく在日3世の金知秀選手も参戦した混成団体戦では「チームKOREA」の一員として健闘し、韓国柔道として初の団体戦メダルを獲得しました。

さらに、夏の甲子園では京都国際高校が悲願の初優勝を飾りました。2024年はまさしく、在日アスリートの活躍が世界に示されました。

10月の第105回韓国国体では呉公太在日同胞選手団長のもと、在日同胞選手団は海外同胞の部で総合準優勝の活躍を見せました。

今年は、「祖国光復80周年」「韓日国交正常化60周年」という節目の年です。この意義深い年に、韓国と日本と在日同胞体育人がさらに絆を深めていきましょう。そして、今年の釜山国体では、ぜひとも総合優勝を奪還しましょう。

各地方本部と競技団体におかれましては、優秀な同胞選手の発掘と育成にご協力をお願い申し上げます。

金利中・民団中央本部団長は「体育会はスポーツという文化を在日選手を通じて本国社会に送ってきた。民団としても選手発掘に尽力したい。在日の存在、力を本国にアピールするのが今度の大統領選挙。在外選挙権登録に協力を」と求めた。

顧問を代表して宋基泰常任顧問は元京都国際学園の理事長を務めたことに触れながら「狭いグラウンドという悪条件ながらも甲子園で優勝した。栄誉を称えるハングルでできた校歌が全国にとどろき、本国からも喜びの声が届き感無量だった。韓国代表に派遣した柔道の許海実選手のように今後も在日選手の活躍と会の発展を祈る」とメッセージを寄せた。

2024年度第72期の活動報告では、4月に開いた創立70周年記念式典や大韓体育会との業務協約書締結などを評価したほか、各地方本部と競技団体が主体となったスポーツイベントや地域自治体のスポーツ大会に積極参与したことが報告された。

あわせて、昨年7月に東北地方本部が結成されたことにより、新たな選手発掘に繋がったことも強調された。

2025年度の活動方針では、25ぶりに釜山で開かれる「韓国国体」と2026第20回アジア競技大会（愛知・名古屋）に向けて同胞選手の発掘、育成などに全力を尽くすことを決めた。

また、公式サイトやコミュニケーションアプリを活用して、広報活動を強化していくほか、各地方本部や競技団体が一体となって優秀選手の発掘・育成を図っていく。

日本スポーツ団体や自治体との交流を深め、在日アスリートの発掘を図るほか、大韓体育会や本国競技団体との連携を強化し、優秀な在日アスリートの韓国代表選手輩出をめざす。

各地方・競技団体も総会

関東本部 新会長に林永起氏

楽しいスポーツイベントへ全力



在日本大韓体育会関東本部（文京一会長）は5月17日、東京・港区の韓国中央会館で第46回定期総会を開き、新会長に林永起氏（48）＝写真＝を選出するとともに、各競技団体と連携した次世代育成を主体としたスポーツ大会の展開など新年度活動方針を決めた。

体育会中央本部の鄭眞一専務理事、民団東京本部の呉永錫団長、東京韓商の金淳次会長、青年会東京本部の郭玟瑤会長、婦人会東京本部の李幸子副会長らが参席し激励した。

体育会中央の宋栄奉会長（鄭眞一専務理事代読）は「重責を担ってきた文京一会長には長い間の尽力に感謝したい。中でも関東本部が1996年からスタートしたオリニミニサッカー大会は昨年まで、28年間、一度も欠かすことなく連続開催してきたことは次世代アスリート育成の役割を大きく果たしてきた。今後も優秀な次世代選手育成と発掘に協力してほしい」と呼びかけました。

呉永錫民団東京本部団長もオリニミニサッカーやボウリング教室などスポーツを通じた次世代育成を評価し、「今後もスポーツを通じた同胞の絆を深めてほしい。6月に開催する東京本部団長杯ボウリング大会など、民団行事に協力をお願いしたい」と述べた。

報告では、28年間欠かさずにオリニ・ミニサッカー大会が継続できたことが強調された。また、東京韓国学校初等部サッカーチームにユニホームを寄贈し、このユニホームを着用して宮城県名取市で開催された日韓サッカー交流大会で優勝したことが強調された。

新年度方針は①韓国国体への優秀選手派遣②第29回オリニミニサッカー大会開催③関東テニス大会④オリニボウリング教室への支援など。

役員選出では監事に康聖熙、金宗洙の両氏が就任、副会長



在日3世を中心とした役員構成となった関東本部の総会（5月17日）

に許哲中、朴泰成、韓新悟、蔡鍾大、秦承煥の5氏、専務理事に鄭昇栄氏が任命された。

林永起新会長は「文京一会長が半世紀にわたって体育会に携わってきたスポーツへの熱意に敬意を表します。これまで培ってきた事業をさらに永く継承し、より多くの同胞に携わって、何よりも楽しい活動を企画していきたい」と就任の第一声。

幼少期時代、アボジに民団の運動会などに連れて行かれたことを振り返りながら、「こんなに同胞がいるんだと思いながら、民団活動の中にも身近にスポーツがあり、人との交流が盛んだったことを覚えている。そんな民団との触れあいがあったからこそ、後々に学生会や青年会に携わるきっかけに繋がった。そのようにスポーツイベントを続けてきた先輩たちの恩恵を受けた世代の一人として、これまで培ってきた活動経験と人脈や深めてきた愛情を体育会関東本部の活動に生かしていきたい」と熱意を述べた。

中北本部 新会長に成在浩氏

若手世代と協力体制へ



中北本部（南茂会長）の第52回定期総会は5月22日、名古屋市の民団愛知本部会館で開催した。任期満了に伴う役員改選では新会長に前監事の成在浩氏（51）＝写真＝が選出された。

活動報告、決算、監査報告をはじめ、新年度活動方針案、予算案が原案通りに

承認された。

新年度活動方針として①ボウリング大会②モルックやゴルフ大会など民団と共催③民団支部のスポーツイベント支援など、民団と傘下団体、競技団体と連携したスポーツ大会の協力などを決めた。

あわせて来年、愛知県で開催される第20回アジア競技大会に向けて、韓国選手団への応援など、在日同胞と地域スポーツ振興に注力していく。

この後、任期満了に伴い役員が総辞職。南茂会長は「この3



新任の抱負を述べる中北本部の成在浩新会長（5月22日）

年間、コロナ禍の中でも継続してきたボウリング大会や民団と共催したゴルフ大会など、スポーツを通じた地域同胞の交流を深めてきたが、支えていただいた会員や役員の皆さんに深く感謝している。私自身の力不足もあり、皆さんの期待に十分応えたとは言い切れないと感じている。新体制ではさらなる活性化を期待しており、私自身も一会員として後方支援を継続していきたい」と離任のあいさつを述べた。

新会長には前監事の成在浩氏が満場一致で選出されたほか、監事には朴雅貴、徐暢烈の2氏が選出された。

成新会長は「伝統ある中北体育会の会長という責任の重さを感じている。来年、愛知・名古屋アジア大会が開催されることもあり、ここ愛知でもスポーツ熱の高まりを期待しながら、体育会中北としても青年会や青年商工会など若手世代と手をつなぎながら、スポーツを通じた在日同胞の連帯と次世代選手の発掘に努力していきたい」と抱負を述べた。

総会には体育会中央本部の鄭眞一専務理事、民団愛知本部の李豊宏団長と蔡駿二議長、成功監察委員長、民団岐阜本部の金尚道団長、婦人会愛知本部の李南春会長、青年会愛知本部の金直哉会長、愛知韓国商工会議所の名古屋韓国学校の金栄官理事長らが参席し激励した。

九州本部 任隆二体制を続投 老若男女が集う場を拡大

在日本大韓体育会九州本部（任隆二会長）は5月24日、福岡



韓国会館で第54回定期総会を開催し、任隆二会長(57)=写真=を再選するとともに、新年度活動方針として①九州韓国入ボウリング大会継続開催②韓国国体への優秀選手派遣③第2回福岡韓国入ゴルフ大会の開催などを決めた。

活動報告、決算報告、監査報告に続いて新年度活動方針、予算案がそれぞれ満場一致で承認された。

活動報告では22回目となったコリア・ボウリング・フェスティバルに老若男女200人以上が集い、福岡県内の同胞イベントとしても大きな存在となり、民団各支部間の連携と子どもからお年寄りまで世代を超えたスポーツ交流として同胞の絆を深める役割を果たしていることが強調された。

また、今年2月に新たな試みとして「福岡ゴルフ大会」を開催し好評を得たことから、今後、民団支部対抗と九州各県対抗



任隆二体制の続投を決めた九州本部の第54回定期総会（5月24日）

など、趣向を凝らして継続していくことを確認した。

任期満了に伴う役員改選では任隆二会長ほか、監事、副会長など現体制での役員構成となった。

再任にあたって任隆二会長は「ここ福岡をはじめ九州には優秀な同胞アスリートが多く埋もれているはず。そんな同胞選手を韓国国体に派遣していきたい。是非とも体育会に連絡してほしい」と、体育会の理事でもある民団各支部支団長に対して呼びかけた。

総会には体育会中央から鄭眞一専務理事、民団福岡本部の李鍾出団長、婦人会福岡本部の宋三子会長をはじめ、民団福岡各支部の支団長らが参席した。

李団長は「歴史ある体育会九州はスポーツを通じて同胞の連帯を広げてきた。民団としても今後とも精一杯の援護をしながら体育会の活性化に後方支援していく」と述べた。

関西本部 競技団体との連携強化 韓国代表輩出へ努力

関西本部（嚴将守会長）は6月3日、大阪市中央区のホテルで定期総会を開き、関西地域次世代アスリートの発掘や各種スポーツイベントの開催などを中心とした新年度活動方針を決めた。

昨年新会長に就任した嚴将守会長はこの間、関西に事務局を置く各競技団体長と協力体制を強化して、各種イベントを開催した。

嚴会長は「会長就任1年目は皆さんの協力とアドバイスのおかげで卓球大会やボウリング大会などのスポーツイベント開催にこぎ着けた。今年度はさらに拡大し、関西同胞の連帯と優秀選手発掘に努めたい」としながら、「組織には人、物、金が不可欠と言われますが、何よりも重要なのはメンバーのみんなが楽しくやっていくことが大切。これからもメンバーが心をつにし、体育会を盛り上げていこう」と呼びかけた。

総会には理事と顧問をはじめ、関西に事務局を置く柔道、テコンドー、ゴルフなどの競技団体会長、体育会中央、民団大阪本部と京都本部、在日韓国商工会議所などから35人が参席した。

体育会中央の宋栄奉会長（代読）は「1964年東京五輪で在日2世の金義泰選手が韓国初の柔道五輪メダリストとなったことを皮切りに、72年ミュンヘンで呉勝立が銀、76年のモント



韓国代表選手発掘への努力を誓い合いファイティングポーズする体育会関西本部定期総会の参加者（6月3日）

リオールで朴英哲が銅、2021年の東京で安昌林が銅メダルを獲得したが、すべて関西から輩出したアスリートだ。このように1961年の創立以来、優秀選手を発掘してきた関西本部はまさに、在日アスリートの宝庫でもある。今後も次世代アスリートの発掘と育成をお願いしたい」と激励した。

民団大阪本部の金明弘団長は「孫基禎選手はベルリン五輪でアジア人初となるマラソンで優勝したが、日章旗を背負った金メダリストで、国を持たない悲しさを象徴した出来事だった」と歴史を振り返りながら、「祖国解放後、一日も早く祖国が豊かになり、堂々と太極旗を背にした選手を世界に送りだそうとの在日同胞体育人の思いが韓国の五輪初出場を実現させた。在日本大韓体育会は在日同胞の誇りです。自信を持って後進を育て、スポーツを通じてアジアと世界の平和のために貢献してほしい」とエールを送った。

民団京都の張祥一団長も「ここ関西地区から数多くの韓国国家代表選手を輩出してきたことは素晴らしいこと。これからも次代を担う選手たちの育成と発掘を期待している」と期待を込めながら、5月25日に民団京都が開催した「同胞交流和合ハンマダン・運動会」についてふれ、「幼児からお年寄りが一つになって快い汗を流し、声援を送りあうなど活気あふれる時間となった。今後、体育関西本部ともスクラムを組んでさらに盛り上げていこう」と呼びかけた。

厳会長は今年度の事業計画として、関西に事務局を置くゴルフ協会や柔道会、テコンドー協会、水泳連盟などと連携して、優秀選手発掘や子どもが集まるボウリングや卓球大会を展開していくことを強調した。

総会の冒頭、体育会中央が制作した体育会70年の歩みを紹介したドキュメンタリー映像が上映された。

鑑賞した参加者は「祖国光復後、韓国スポーツの発展に在日体育人がいかに貢献してきたかを初めて知った」、「韓国代表選手を数多く輩出し、在日同胞の存在と志気を韓国と世界に示してきた在日体育会の精神をしっかりと継承していくべき」との声や、「感動と勇気をもらえるスポーツは素晴らしい」と感想を述べていた。

サッカー協会 地域イベントに積極参与 フットサル大会継続も

在日本大韓蹴球協会（朴泰成会長）の2025年度定期総会は5月17日、韓国中央会館で開かれ、次世代選手の発掘と育成、各種サッカー交流、韓国国体への優秀選手派遣などを柱とする新年度活動方針を決めた。

国体選手OBらを中心に、今年3月に初の試みとして開催したフットサル大会が好評だったことから、今後も定期的に開催していくことが決められた。

さらに、日本の各地域で開催している各種サッカーイベントにも招待試合を中心に積極参加していく。その一環として、今年6月22日に大阪・関西万博会場内「EXPOアリーナ」で開催される在日外国人チームによる「フットサル・ユニティ・ワールドカ



フットサル大会をはじめサッカークリニックなどの活動方針を決めた在日本大韓蹴球協会の2025年度定期総会（5月17日）

ップ2025」に韓国チームとして出場することも確認した。

10月開催の第106回韓国国体・釜山大会でのサッカー優勝奪還に向け、優秀選手を確保していく。

また、元ブラジル代表のサッカー選手、エジミウソンによって①「夢」を持つことの楽しさ大切さを伝える②経済的理由で夢を諦めざるを得ない子どもたちを支援③子どもたちに世界へチャレンジできるフィールドを提供する—ことを目的に2005年に設立した「エジミウソン財団」を母体に日本に設立した「エジミウソンファーズ・アジア」とコラボしたサッカークリニックの共催も計画していく。

ボウリング協会 オリニ教室を継続 国体に向け強化訓練

在日本大韓ボウリング協会（韓新悟会長）は4月5日、茨城県坂東市のボウリング場会議室で2025年度定期総会を開催した。協会役員をはじめ、釜山国体代表選手選抜の第1次予選大会に集まった31人のメンバーが参加。

報告では昨年の慶尚南道国体で男女合わせて全10種目中、3種目で銅メダルという結果。競技途中までメダル範囲だった4種目が4位に止まり、イージーミスの克服が課題だと指摘。

10月に釜山で開催される第106回韓国国体に向け、強化合宿などを通して、メンタル面の強化や国体のスポーツレーン・コンディションの変化に対応できる練習方法を徹底していくことが確認された。

新年度活動方針では、2013年から開催している第10回オリニボウリング教室を7月14日に開催することも決めた。あわせて、東京都大阪で月例大会の開催も継続していく。

また、長年、関西支部の会長を務めてきた朴祥子氏に代わって、宋在豪氏が新会長に就くことを承認した。



オリニボウリング教室の継続などを決めた在日本大韓ボウリング協会の定期総会（4月5日）

韓日国交60周年でスポーツ講演会 在日柔道家をテーマに

豊田正彦氏「ロス五輪許海実に期待」

在日本大韓体育会の第57回定期総会終了後、「韓日スポーツ交流について-柔道を中心として」をテーマに講演会が開かれた。講師は豊田正彦・共同通信社特別顧問。1986年のソウル・アジア大会や88年ソウル五輪を取材したほか、アトランタ支局長として96年アトランタ五輪、長野支局次長として98年長野冬季五輪を報道した。

在日の五輪メダリストは6人。すべて柔道選手だ。1964年東京五輪で金義泰選手が銅メダル、1972年のミュンヘン五輪で呉勝立選手が銀メダルを獲得した。両選手が生まれ育った神戸の旧神楽小学校（現長田南小）は柔道熱の強い地域だった。天理大で鍛えた金選手が韓国柔道のパイオニア。引退後に韓国柔道の礎を築き、在日大韓体育会や在日大韓柔道会が本国の国体選手派遣などで今日まで繋げてきた。

豊田顧問は「3年後のロス五輪で許海実選手が在日コリアン初の金メダルを獲得することを期待する。日本人が在日を正しく理解し、新たなまなざしを向ける契機になってほしい」と語った。



柔道を中心に在日同胞柔道選手の活躍などを解説した豊田正彦氏

韓国競泳代表が宮崎で強化合宿 パリ五輪メダリストも参加

競泳韓国代表チームが4月にオープンした宮崎市錦本町のプール「パーソルアクアパーク宮崎」で4月14日から5月22日まで強化合宿を行った。

7月11日から8月3日まで、シンガポールで開催される世界水



歓迎のブーゲンビリアのレイをかけてもらう韓国競泳代表（4月13日、宮崎空港）

泳選手権に向けた事前合宿で、昨年のパリ五輪で銅メダルを獲得した金禹旻選手ら31人（男子13、女子13、監督・コーチなど5人）が参加した。

4月13日、仁川空港から宮崎ブーゲンビリア空港に到着した韓国チームは、到着ロビーで待ち受けた宮崎県と宮崎市の関係者らの歓迎セレモニーを受けた。

宮崎県スポーツランド推進課の渡邊陽生課長と元競泳日本代表の松田丈志さんが歓迎のあいさつを述べた。

これに応えて、今回、韓国競泳チームの監督を務める在日本大韓水泳連盟会長で大韓水泳連盟副会長の金一波氏がお礼のあいさつを述べた。

また、合宿が始まった4月14日には、「パーソルアクアパーク宮崎」に河野俊嗣宮崎県知事と清山知憲宮崎市長が激励に駆けつけ、宮崎県の名産品、宮崎牛ロースと完熟マンゴーが贈られた。



宮崎県での強化合宿を終えて記念撮影（5月21日）

関東と関西で予選会 ボウリング釜山国体代表選抜へ 4日間30ゲームの熱投

在日本大韓ボウリング協会（韓新悟会長）は4月5、6の両日と6月28、29の両日、茨城県坂東市内と東大阪市内のボウリング場で、今年10月17日から開幕する第106回韓国国体釜山大会に派遣する在日同胞代表選手選抜大会を開催した。東京、長野、大阪、福岡などから国体経験選手ら31人の男女ボウラーが出場した。

海18カ国の同胞で競い合う韓国国体「海外同胞の部」は個人戦、2人組、3人組、団体戦、マスターズと男女合わせて10個の金メダルを競う最もメダルが多い競技だ。

ボウリングでの金メダル数が「海外同胞の部」の総合成績に大きく影響する。今年は4月に東日本、6月に関西の2次にわ



釜山国体代表選手選抜大会には関東、愛知、大阪、福岡から31人が出場した（4月5日、茨城県坂東市の第一次予選大会で）

たって選抜戦を行う。

韓国国体でのハードスケジュールを想定し、第1次が14ゲーム、第2次は16ゲームの合計30ゲームの平均点で選考する。

レーンコンディション（レーンに塗られているオイルの状態）も難易度の高い、韓国国体仕様からランダムに選択した。

国体代表選手数は男女それぞれ6人。今年は選抜の条件だった基準点を設けず、全30ゲームの総合成績上位4人が当確。残り2人は協会役員会で選考する。

在日3世の小川裕暉が銅メダル 柔道韓国代表選抜戦 女子の梁智瑛選手も銅獲得



代表選抜戦で銅メダルを獲得した小川裕暉選手（左）と梁智瑛選手

3月11日に開催された柔道の2025年第2次韓国代表選抜戦で在日同胞3世の小川裕暉選手（25）が男子-90kg級で銅メダルを獲得した。同級2位のウォン・ジョンフン選手が選手村入りを辞退したため繰り上がりで韓国代表入りした。

1回戦はキム・ドンファ（韓国体育大学）に合わせ技で一本勝ちすると、2回戦は李ホンギョ（KORAIL）とゴールデンスコアの延長戦に突入し技ありで勝利。3回戦ではカン・ミンジェ（光州市体育会）に抑え込みで一本勝ちし準々決勝に進んだ。

ハン・ギョンジン（楊平郡庁）との準々決勝も延長までもつれ込んだが、延長1分16秒に押さえ込んで勝利した。

準決勝の相手は韓国代表でもあるキム・セホンだったが、試合開始から45秒過ぎに腰技で一本負けした。



実業柔道全国大会で優勝した梁智瑛選手

この日、弟の小川晟矢選手（24）も-90kg級に出場したが、ベスト8にとどまった。

小川裕暉選手は国家代表選手村に入村し、5月9～11日にカザフスタンで開催された「グランドスラム・カザフスタン」に韓国代表として出場した。

一方、女子の部では武庫川大学

出身の在日3世、梁智瑛選手（25・-70kg級＝江原道東海市庁所属）が銅メダルを獲得した。

また、梁智瑛選手は4月11日から13日まで江原道楊口郡で開催された「2025春季実業柔道全国大会（韓国実業柔道連盟主催）」の女子個人重量級で優勝した。

在日の許兄弟が大活躍 日本冬季国体スピードスケート 弟の許峻瑗が2連覇



圧倒的な強さで日本冬季国体2連覇した許峻瑗選手（赤色の帽子）

1月29日までの4日間、群馬県伊香保リンクで開催された、第79回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会（スピード）で兵庫県代表として出場した在日同胞の許佑赫、峻瑗兄弟が大活躍を見せた。

大会最終日（29日）に行われた少年男子1000メートル決勝で弟の許峻瑗（18・コーネル大学）が1分12秒13の記録で優勝した。

許峻瑗は初日（26日）の少年男子500メートルでも38秒18の記録で準優勝していた。

弟の踏ん張りに兄の許佑赫（22・大阪大学）が刺激を受け、大会3日目

（28日）に行われた、成年男子1500メートルで準優勝した。優勝をめざした29日の1000メートル決勝では優勝こそ逃したが、4位入賞した。

兄の許佑赫は日本での国体を前に、ソウルの泰陵で開催された第106回韓国冬季国体でも銅メダルを獲得していた。

米国・コーネル大学に留学中の許峻瑗選手は一時日本に帰国後、5月20日から7月まで、韓国の韓国体育大学で合同訓練に参加している。



日本の冬季国体少年男子1000mで2連覇した許峻瑗選手（左）と成年男子1000mで準優勝した許佑赫選手

大韓体育会の新会長に柳承敏氏 卓球のレジェンド



会長選挙で当選しガッツポーズの柳承敏新会長（1月14日）

大韓体育会の第42代会長選挙が1月14日、ソウル松坡区オリンピック公園オリンピックホールで開かれ、柳承敏・前大韓卓球協会会長（43）が3選をめざしていた李起興現会長を破って当選した。柳氏は歴代最年少での会長就任となる。

今回の選挙には選挙人団2244人のうち1209人が参加した。投票率は53.9%を記録した。柳承敏候補は417票を獲得し、5人の候補を抜いて当選した。

当初は2016年に初当選し、2021年の選挙で再選された李起興会長の3選が有力視されていたが、得票379票で2位にとどまった。

柳承敏氏は会長選挙運動期間中、一日平均25kmを歩きながら、足を運んで有権者たちと面会した。

2016年リオ五輪当時、国際オリンピック委員会（IOC）の選手委員に立候補した際、足で走りながら有権者に訴え、予想を破って当選した経験を再現した。

2月28日に正式就任した柳新会長の任期は2029年までの4年間。

柳新会長は、「重い責任感とプレッシャーを同時に感じている。体育界に様々な懸案が山積しており、変化を望む体育人たちの願いに一歩前進するために献身していく」と述べた。

体育振興公団の新理事長も交代 柔道の英雄、河亨柱氏



在日本大韓体育会の70周年記念式で祝辞を述べる河亨柱氏

1984年ロサンゼルス五輪柔道金メダリストの河亨柱氏（62）が昨年11月20日、国民体育振興公団の理事長に就任した。

昨年4月に開催した在日本大韓体育会の創立70周年記念式典にも参席した河亨柱氏は釜山体育高校と東亜大出身で、1984年ロサンゼルス五輪の柔道男子95キロ

級で優勝した。

韓国柔道が五輪で金メダルを獲得したのは、同大会男子71キロ級の安炳根に続き、河亨柱が2人目だった。

足が大きく、「ワンバル（王の足）」というニックネームを持ち、2002年釜山アジア大会では、北韓の「柔道英雄」、桂順姫と共に聖火を共同点火し、今年10月には大韓体育会選定の「大韓民国スポーツ英雄」にも名前を上げた。

ロス五輪後、1985年の神戸ユニバシアード、1986年ソウルアジア大会でも金メダルを獲得し、1988年ソウル五輪にも出場した河氏は、1996年に釜山市議会議員として政界入りし、母校の東亜大学教授として後輩養成にも努めた。2023年8月、国民体育振興公団の常任監査に選任されていた。

全北が2036五輪誘致へ



韓国国内の候補地に選ばれ万歳をする全羅北道の金寛永知事ら

大韓体育会（韓国オリンピック委員会）は2月28日、ソウル市内で総会を開き、2036年夏季五輪・パラリンピックの国内候補地を南西部の全羅北道に決定した。

韓国国内開催地には全羅北道とソウルとが立候補し、投票の結果、全羅北道が49票獲得、11票のソウル市を上回った。

当初、全羅北道はソウルに大きく押されるものと予想した。しかし、投票前の最終プレゼンテーションで光州市、忠清道、大邱市など、近隣地域と分散開催し経費削減と「地方都市の連帯」をスローガンとして掲げた。一方、ソウル市は1988年大会の経験やインフラ面での強みを強調したが及ばなかった。

ただ、全羅北道は今後、他の候補都市と厳しい誘致合戦が待っている。2036年五輪の誘致をめざす都市は世界10力所前後と予測されている。2028年が米国、2032年は豪州の開催だけに、2036年はアジアか欧州が有力視されている。

アジアではカタール、インドネシアなどが立候補の意向を見せており、欧州ではトルコ、デンマーク、イタリア、さらにアフリカのエジプトも誘致する案を打診している。

国際オリンピック委員会（IOC）は、開催候補都市間の誘致戦による後遺症を減らし、低コスト・持続可能な五輪のために、2032年から開催地選定方式を変更した。

IOCは「未来誘致委員会」という、五輪事前審査・選定機構を通じて優先交渉都市を推薦し、執行委員会の承認と総会賛否投票を経て開催地を選定している。この開催地優先交渉都市は、早ければ今年9月のIOC総会で発表される。

2026サッカーW杯 韓国が11回連続出場



W杯11回連続出場を決め喜び合う韓国代表

イラクに2-0で勝利

洪明甫監督 (56) が率いるサッカー韓国代表 (FIFAランキング23位) は6日 (日本時間)、敵地のイラクのバスラ国際競技場で行われた2026北中米ワールドカップ (W杯) アジア3次予選B組第9戦でイラク代表 (59位) に2-0で勝利した。韓国は5勝4分けの勝ち点19点となり、最終第10戦を残してB組2位以上が確定。11大会連続12回目のW杯出場を決めた。

エースの孫興慜 (トッテナム) がけがで抜けた中、李康仁 (パリ・サンジェルマン) がチームを引っ張った。

35年ぶりに行われたイラクとのアウェー試合は現地時間午後9時15分に始まったが、気温は31度だった。これに先立ち「孫興慜に無理をさせない」と話していた洪監督はこの日、孫興慜をメンバーから外した。先月の欧州サッカー連盟 (UEFA)



先制ゴールを決めた金鎭圭

ヨーロッパリーグ決勝戦で交代出場した孫興慜はまだ足のけがが完治していないためだ。

前半、イラク選手の退場による数的優位の中、李在成 (マインツ) と李康仁のシュートがゴールポストに弾かれた。しかし後半18分、李康仁のアシストを受けた

金鎭圭 (全北) が決

勝ゴールを決めた。さらに後半37分、全晋吁 (全北) のアシストで呉賢揆 (ベルギー・ヘンク) が追加点。

アジア最終予選は18チームが3組に分かれ各組上位2チームにW杯出場権が与えられる。各組の3、4位はアジア・プレーオフ (PO) で残り2枠と、大陸間POに回る1枠を争う。

韓国は1986年メキシコ大会から11回連続の本大会出場であり、初めて出場した1954年スイス大会を含めると通算12回目のW杯本大会となる。韓国はイラクとの対戦成績を11勝2敗12分けとした。

ソウルで世界同胞スポーツシンポ 釜山国体競技場の視察も



ソウル汝矣島の国会議員会館で開催された第9回世界韓人体育会シンポジウム (4月21日)

各国の在外同胞と体育関係者を対象に地域と世界を連結するグローバル教育ビジョンを発信する「第9回世界韓人体育会・シンポジウム」が4月21日、韓国ソウルの国会議員会館で開催された。世界韓人体育会総連合会 (鄭周炫会長) が主催。

9回目を迎える今回のシンポジウムには、在外同胞体育人たちの活動状況を共有し、各国韓人体育会発展に何が必要なのかなどを議論するために、各界各層の人士が一堂に会した。

世界韓人体育会総連合会会員の18カ国・地域の韓人体育会の代表ら40人が参加した。日本からは在日本大韓体育会の鄭眞一専務理事と慎求範対外協力部長が参加した。

シンポジウムに出席した元元植韓国国会議長は「世界各国の韓人体育会を代表して来られた皆様に国会議長として心より歓迎の言葉を申し上げる」とし「在外同胞は外交的文化を知らせる大韓民国の懸け橋であり、民族の大切な同志であると同時に韓国スポーツの開拓者でもある」と強調した。また、「世界韓人体育会の皆様が献身とその情熱に対してもう一度感謝の言葉を伝える」と付け加えた。

世界韓人体育会総連合会の鄭周炫会長は「今回のシンポジウムは未来に向けた連帯を持つ大切な場」とし、「韓国と海外同胞スポーツの懸け橋としての役割を遂行し、世界のスポーツ活動の発展と交流を通じて韓民族共同体の和合と繁栄に寄与していこう」と強調した。

参加した各国代表は翌日から第106回国体開催地の釜山に移動し、主要競技場の視察のほか、釜山広域市による釜山国体の準備状況や各国選手団への支援計画についてのブリーフィングを受けた。5月24日にはロッテホテル釜山で世界韓人体育会総連合会の臨時総会を開催した。



釜山国体の開・閉会式が行われる釜山アジアドスタジアムなど、主要競技場を視察した各国同胞体育会のメンバー